

## “厳かに統計大会の幕開らく”

菊香る11月10日、県民文化の殿堂千波の丘にそびえる文化センターに、第9回茨城県統計大会が開催された。この大会は県下の統計マンにとって唯一の集いであり。統計意識の向揚と統計思想の普及向上のため毎年実施されているもの、午前10時30分この意義深い統計の祭典は石崎統計課長の開会のことばによつて厳肅裡に開かれた。

## “この佳き日ここに統計マンの意気”

統計大会は、県下市町村をはじめ、各分野にわたる統計関係者700人が参集して行なわれるもので、当日は約7千人におよぶ統計マンの代表として県内各地から定刻までにはぞくぞくと会場につめかけ受付氏もテンテコ舞い。現代社会の要請に応える統計の重要性がまだ一般に理解され難い現状において統計調査に従事する人達の苦労は並大ていではないだろう。この日ばかりは同じ統計にたずさわる同志の集いとして終始和やかに、有意義な日を過したのである。

## “統計の苦労笑顔となる受賞”

当日は、統計という目立たないそして重要な仕事に黙々として従事されている関係者に対して、長い間のご苦労とその業績を称えるため知事をはじめとし統計協会総裁、各省関係からの表彰状の伝達など数々の受賞が行なわれた。統計調査員の方々は10年以上この道に励んで来られた方々、平素の努力がむくいられ、この席上輝やかなしい表彰となつたもの、本当におめでとう。

## “統計の夢を育てるグラフ展”

統計大会の会場に、第15回の県統計グラフコンクール入選作品が展示されて参会の統計マンの目を楽しませてくれた。このグラフ展は、毎年統計思想の普及と統計技術の研さんに資するために小、中、高校生を対象に募集しているもので、子供達が夏休みに自分達が観察した資料を基にして作図

したもので、統計的な見方、考え方を育てる統計教育の一環として行なわれているものである。

## “グラフ展入選小っちゃな受賞の子”

統計グラフの入選者に対して統計大会の席上表彰が行なわれた。知事、教育長、統計協会長からそれぞれ代表の子らに、知事賞代表は助川小の一年生福田さん、“登場するに大人のかげからチョコチョコと”そして大きな賞状が手に余りそう。万場のはは笑、一層の和やかさを添えた。

## “満場の拍手に宣言文決議”

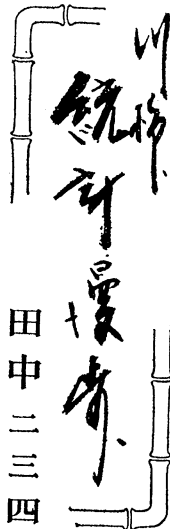
統計大会も大詰、加藤木桂村総務課長によつて統計マンの決意を内外に宣言するための決議文が高らかに朗読され満場の拍手のうちに決議された。本年度の決議は、統計智識の研さんにつとめ社会の要請と期待に応える。利計利用の向上。統計を通じ郷土発展と、県民相互の理解に貢献しようとする三点であつた。

## “万才三唱して祭典の幕が下り”

稲敷郡の糸賀美浦村長の音頭により満場の参会者の万才三唱によつて第9回茨城県統計大会は、厳肅に終始和やかにこの意義深い統計マンの祭典の幕を閉じたのである。

## “舞い扇踊る肢体の線たしか”

大会終了後のアトラクションは、華やかに岩井流の岩井貴彰氏社中による“日本の郷愁”と題する一般の大象に親しみ易い、民謡とか歌謡曲入りの踊りでみんなが知っているものを主に構成したもので参会者の手拍子も混じつて楽しい雰囲気の中に進められていった。



(80)



## 11月の思考

“ゆりかごから墓場まで”これは戦後の英国社会保障政策をバラ色化して当時の政治家も、社会革命家も、それに国民全体が讚美し続けたことは耳新しい記憶である。またわが国人口政策上論議の中心となつている昨今の産児制限も英国が先輩であり、現代ニュースタイルの教典ともいうべきミニスカートもまたイギリスに発生した。戦後あらゆる階層で「アチラ」の真似をすれば天下御免と日本街道をまかり通る思考的破産が今日も続くであろう。しかし、今更経営難に陥ちいつた老大国の二の舞いを繰返すこともあるまい。モズも結構、ミニスカートもまたよろしかろう。だが、今の日本には坐して沈思すべき現象があまりにも多い。11月23日は勤労感謝の日、この祝を有意義に過したいものである。

これからは1年を通して最も華麗な星座群をみることが出来る。かつて、私の軍隊生活の冬季の日課のなかに星の講義でしばられた経験がある。身をとおして寒気を骨に感じて1時間も2時間も澄みきつた天心のなかから課せられた星座をさが

し続けた苦しい回想も今は楽しい。

今宵も空を上げば天の北に極君臨する北斗七星のあるおおぐま座、心臓の星アンタレスを赤く無気味に輝やかせた巨大なさそり座、その西にてんびん座がある。このてんびん座のことをラテン語でライブラ(Libra)という。この頭文字のLはかつて世界の標準通貨として不動の強勢を誇つた“ポンド”の略号でもある。ところがこのてんびんもバランスを失い、ポンド切り下げという経済の苦境にあえいでいるのである。この措置に対応してドル流出の防止を策してアメリカでも公定歩合の0.5%引き上げを表明し、わが国でも日銀宇佐美総裁が国際収支改善策を強調したほか、東京株式では史上最高の1,273円33銭と一挙に1,300円の大台を割り込み、株界をてんやわんやに追い込んでしまった。かと思へば今朝の新聞では、県内における冬のボーナス支給総額は154億円、昨年冬に比べ18.5%の伸びであると金融筋では予想を立てている。いやはや11月はまことせわしない月でもある。

(11月21日)

## 統計臨時ニュース

## 42年度教育統計功績者表彰

木口光男氏  
に輝く!!  
田村恵氏

文部省が毎年教育統計の能率増進、成績の向上創意工夫等に顕著な功績のあつたものに対し、表彰を行なっているが、42年度は、先に推せんものあつたものの中から、全国で、個人表彰13名、(うち都道府

県庁関係3名)、を決定した。

本県では、県統計課人口学事統計係長木口光男氏、教育委員会田村恵氏の2氏が、受賞した。両氏共に、本県教育統計において、木口氏は学校基本調査、保健調査等文部省の主管する学事統計に、田村氏学校に直結する教育委員会の立場で、長年の経験を生かし周到な計画と適切な指導等、大きな功績があつたことが認められたものである。今後とも、両氏の活躍を期待すると共に、本県教育界の発展に教育統計が大に活用されることを、二氏の受賞のよろこびと共に、希望する。